



完全無料化に向けて

水海道有料道路の無料化について



などの渋滞緩和が図られ、一定の効果が出たと考える。

議員

問題は、有料になった橋の歴史で、渋滞緩和するために橋が必要であると市民を挙げて運動をおこした。当初は普通の橋として動いていたが、早く作ってもらえるから有料という話になった。今の有料化というのは、市の経済発展を抑えるし、渋滞によるストレスで健康状態が悪化する。市の税金で代替えするのではなく、県の道路公社に対して無料化を訴えるべきと思う。また、算出根拠はどのような形式か伺う。

都市建設部長

議員

6月より早朝6時から8時の間、水海道有料道路の無料化がなされた。その動向で有料道路はどのくらいの交通量の変化が見られたのか伺いたい。

都市建設部長

無料措置期間における交通量は、県道路公社で実施している調査結果では、6月から10月までの5か月で平日の日平均通行量は、この2時間で1831台で、実施前と比較すると2.6倍となっている。有料道路へ転換したことにより、美妻橋、豊水橋



ふるさと納税で殺処分ゼロ！

野犬、地域猫対策について



経済環境部長

こうした状況から脱却するため、県では28年12月に茨城県犬猫殺処分ゼロを目指す条例を制定し、譲渡犬猫サポート事業などの政策を展開している。市においても来年2月定例会議に（仮称）常総市動物愛護条例の提出を予定している。さらに動物愛護推進協議会を立ち上げ、県、獣医師会、動物愛護団体などと連携を強化し、殺処分ゼロを目指した施策を推進していく考えである。財源の確保については、先進地事例を参考に、ふるさと納税、クラウドファンディングなどの財源確保の方法について検討していきたい。

議員

27年度の統計で、県は犬猫の殺処分、全国ワースト2位であった。いかにして殺処分をしないか。今後やっていくのか。今、ボランティアの方が犬猫の面倒を見てくれると思うが、支援のあり方を問題としたい。行政も対応していると思うが、大半のえさ代、避妊などそういうものに関してには善意あるボランティアや個人がその費用を出して対応している。現状はどのようなものになっているのか伺いたい。

堀越 道男 議員

中島 亨一 議員